

授業科目	＊看護過程論					実務家教員担当科目	○
単位	2	履修	必修	開講年次	2	開講時期	前期
担当教員	梶原 江美、幸 史子、隅田 由加里、長崎 恵美子、中島 紀江、西田 彩子						
授業概要	健康上の問題や障害をもつ人々の生活上のニーズや健康上の課題、強みを明らかにし、健康上の課題解決に向けた看護実践に必要な看護過程の基本的な知識と方法を学修する。授業は、講義および事例を用いたグループ学習活動を軸に展開する。 以上のことについて、実務家教員として臨床での実務経験を有する教員が教授する。 実務家教員として、医療現場での看護師としての実践経験をもっているため、その経験を通して展開した看護過程の基本や考え方、活用について支援する。						
授業形態	対面授業				授業方法	グループワーク、ディスカッション	
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	教員の助言・指導の下、以下の学習目標の到達を目指す。 1. 看護過程の展開（アセスメント・問題の明確化・計画立案・実施・評価）に必要な基礎的知識を習得することができる。 2. 科学的根拠に基づく看護（＝EBN）を提供することの意義と必要性が理解でき、看護過程を展開しようとする姿勢を身につけている。 3. 看護を考える上で必要な情報を整理し、既習の知識を用いてアセスメントすることができる。 4. 人間を全人的に捉える必要性を理解し、看護上の問題を列挙することができる。 5. 看護上の問題解決に向けた計画を立案することができる。 6. 計画を基に対象者のニーズの充足に向けた看護実践の重要性を理解し、看護過程の一連のプロセスを展開することができる。						
理想的レベル	教員の助言・指導の下、以下の学習目標の到達を目指す。理想的レベルとしては、主体的に看護問題の明確化に向けた知識の統合と解決を目指した看護につなげる姿勢がみられることを指す。 1. 看護過程の展開（アセスメント・問題の明確化・計画立案・実施・評価）に必要な基礎的知識を習得することができる。 2. 科学的根拠に基づく看護（＝EBN）を提供することの意義と必要性が理解でき、看護過程を展開しようとする姿勢を身につけている。 3. 看護を考える上で必要な情報を整理し、既習の知識を用いてアセスメントすることができる。 4. 人間を全人的に捉える必要性を理解し、看護上の問題を列挙することができる。 5. 看護上の問題解決に向けた計画を立案することができる。 6. 計画を基に対象者のニーズの充足に向けた看護実践の重要性を理解し、看護過程の一連のプロセスを展開することができる。						
評価方法・評価割合							
評価方法			評価割合（数値）			備考	
試験			50%				
小テスト			0				
レポート			20%			事例を通して展開した看護記録	
発表（口頭、プレゼンテーション）			15%			実践発表	
レポート外の提出物			10%			アセスメントガイド	
その他			5%			学習貢献度	

	<ul style="list-style-type: none"> ・整理した情報を基に分析（解釈・判断）する。 [GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]
第 7 回	看護過程の展開【アセスメント（活動－運動）】 個人課題を基に、事例の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。 ・M. ゴードンの「11 の機能的健康パターン」に基づいて、事例患者の情報を分類・整理する。 ・整理した情報を基に分析（解釈・判断）する。 [GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]
第 8 回	看護過程の展開【アセスメント（活動－運動）】 個人課題を基に、事例の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。 ・M. ゴードンの「11 の機能的健康パターン」に基づいて、事例患者の情報を分類・整理する。 ・整理した情報を基に分析（解釈・判断）する。 個人課題に向けての講義（睡眠－休息パターン/認知－知覚パターンの概説） [GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]
第 9 回	看護過程の展開【アセスメント（休息－睡眠）】 個人課題を基に、事例の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。 ・M. ゴードンの「11 の機能的健康パターン」に基づいて、事例患者の情報を分類・整理する。 ・整理した情報を基に分析（解釈・判断）する。 [GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]
第 10 回	看護過程の展開【アセスメント（認知－知覚）】 個人課題を基に、事例の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。 ・M. ゴードンの「11 の機能的健康パターン」に基づいて、事例患者の情報を分類・整理する。 ・整理した情報を基に分析（解釈・判断）する。 個人課題に向けての講義（価値－信念パターン/セクシャリティー生殖パターンの概説） [GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]
第 11 回	看護過程の展開【アセスメント（価値－信念）】 事例の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。 ・M. ゴードンの「11 の機能的健康パターン」に基づいて、事例患者の情報を分類・整理する。 ・整理した情報を基に分析（解釈・判断）する。 [GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]
第 12 回	看護過程の展開【アセスメント（セクシャリティー生殖）】 事例の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。 ・M. ゴードンの「11 の機能的健康パターン」に基づいて、事例患者の情報を分類・整理する。 ・整理した情報を基に分析（解釈・判断）する。 個人課題に向けての講義（自己知覚パターン/役割－関係パターンの概説） [GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]
第 13 回	看護過程の展開【アセスメント（自己知覚）】 個人課題を基に、事例の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。 ・M. ゴードンの「11 の機能的健康パターン」に基づいて、事例患者の情報を分類・整理する。 ・整理した情報を基に分析（解釈・判断）する。 [GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]

第 14 回	<p>看護過程の展開【アセスメント（役割－関係）】</p> <p>個人課題を基に、事例の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ M. ゴードンの「11 の機能的健康パターン」に基づいて、事例患者の情報を分類・整理する。 ・ 整理した情報を基に分析（解釈・判断）する。 <p>個人課題に向けての講義（コーピング－ストレス耐性パターンの概説）</p> <p>〔GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田〕</p>
第 15 回	<p>看護過程の展開【アセスメント】</p> <p>担当教員からのフィードバック</p> <p>〔GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田〕</p>
第 16 回	<p>看護過程の展開【アセスメント（コーピング－ストレス耐性）】</p> <p>個人課題を基に、事例の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ M. ゴードンの「11 の機能的健康パターン」に基づいて、事例患者の情報を分類・整理する。 ・ 整理した情報を基に分析（解釈・判断）する。 <p>個人課題に向けての講義（健康知覚－健康管理パターンの概説）</p> <p>〔GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田〕</p>
第 17 回	<p>看護過程の展開【アセスメント（健康知覚－健康管理）】</p> <p>個人課題を基に、事例の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ M. ゴードンの「11 の機能的健康パターン」に基づいて、事例患者の情報を分類・整理する。 ・ 整理した情報を基に分析（解釈・判断）する。 <p>〔GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田〕</p>
第 18 回	<p>看護過程の展開【全体像と看護問題の明確化】</p> <p>個人課題を基に、事例の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病態関連図に患者情報やアセスメントを加筆しながら全体像を描き、看護上の問題を明確化する。 ・ 患者の概要について 1000 字程度で整理する。 <p>〔GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田〕</p>
第 19 回	<p>看護過程の展開【全体像と看護問題の明確化】</p> <p>担当教員からのフィードバック</p> <p>〔GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田〕</p>
第 20 回	<p>看護過程の展開【アセスメント（健康知覚－健康管理）】</p> <p>担当教員からのフィードバック</p> <p>〔GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田〕</p>
第 21 回	<p>看護過程の展開【プロブレムリスト】【看護計画】</p> <p>導き出した看護問題を基に優先順位を付けたプロブレムリストを作成し、各問題ごとに計画を立案する</p> <p>〔講義：梶原〕</p>
第 22 回	<p>看護過程の展開【プロブレムリスト】【看護計画】</p> <p>個人課題を基に、看護問題の解決に向けてグループ学習を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 導き出した看護問題を基に優先順位を付けたプロブレムリストを作成する。 ・ 看護問題の解決に向けてグループで意見交換をし、個人課題に活かす。 <p>〔GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田〕</p>

第 23 回	<p>看護過程の展開【看護計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人課題を基に、看護問題の解決に向けてグループ学習を展開する。 <p>[GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]</p>
第 24 回	<p>看護過程の展開【看護計画】</p> <p>担当教員からのフィードバック</p> <p>[GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]</p>
第 25 回	<p>看護過程の展開【看護計画】</p> <p>個人課題を基に、看護問題の解決に向けてグループ学習を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立案した計画を基に、実施日の計画（本日の実習計画）を作成する。 ・ 看護の実施に向けた準備を行う。 <p>[GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]</p>
第 26 回	<p>看護過程の展開【看護計画】</p> <p>個人課題を基に、看護問題の解決に向けてグループ学習を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立案した計画を基に、実施日の計画（本日の実習計画）を作成する。 ・ 看護の実施に向けた準備を行う。 <p>[GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]</p>
第 27 回	<p>看護過程の展開【実施】</p> <p>個人課題を基に、看護問題の解決に向けてグループ学習を展開する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立案した計画の一部を看護の実践を通して発表する。 <p>[GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]</p>
第 28 回	<p>看護過程の展開【実施】</p> <p>個人課題を基に、看護問題の解決に向けてグループ学習を展開する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立案した計画の一部を看護の実践を通して発表する。 <p>[GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]</p>
第 29 回	<p>看護過程の展開【評価】</p> <p>個人課題を基に、看護問題の解決に向けてグループ学習を展開する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表した看護を振り返り、計画の加筆修正を行う。 ・ 看護の評価を行う。 <p>[GW：梶原 / 幸 / 隅田 / 長崎 / 中島 / 西田]</p>
第 30 回	<p>看護過程の展開【まとめ】</p> <p>[講義：梶原]</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 深井喜代子編：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（メジカルフレンド社） ・ 永田明、石川ふみよ監修：看護がみえる vol4 看護過程の展開（メディックメディア） ・ リンダ J. カルペニート=モイエ著、黒江ゆり子監訳：看護診断ハンドブック 第 12 版（医学書院）
参考図書・ 教材／データ ベース・ 雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・ マージョリー・ゴードン著、上鶴重美訳（2009）：「アセスメント覚書 ゴードン 機能的健康パターンと看護診断」（医学書院） ・ マージョリー・ゴードン著、松木光子他訳（1998）：「看護診断/その過程と実践への応用 原著 第 3 版」（医歯薬出版株式会社） ・ 浅野浩一郎ほか著（2019）：「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 循環器」（医学書院）

	上記以外については、必要時、その都度、紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	課題の質問に対する回答は、classroomを通じて全体に周知する。 ポートフォリオは評価後、定期試験前までに返却する。
学生へのメッセージ・コメント	<p>看護師の思考過程であり、看護実践の方法論でもある看護過程の基本を学ぶ授業です。授業では「心不全患者」の事例を用います。事前準備として看護形態機能学やヘルスアセスメント演習で学修した循環器に関する知識を十分復習しておいてください。</p> <p>看護過程は、これまで各科目で学修した内容をつながけながら自分で思考を整理して根拠をもって看護の対象者に看護を実践する過程となります。最初は、とても難しく感じるものです。しかし、看護過程の一連のプロセスを経て、患者へ看護を提供できた時に一つの道筋で患者に向き合う看護の面白さを体感できるものでもあります。そのことを見据えて、地道に学習に取り組んでくれることを期待します。</p>